

「ナッジ」とは？

日本版ナッジ・ユニットBEST



Behavioral Sciences Team
for a better choice

ナッジ等の行動インサイトを活用した行動変容の促進

- **ナッジ** (nudge : **そっと後押しする**) とは、行動科学の知見 (**行動インサイト**) の活用により、「**人々が自分自身にとってより良い選択を自発的に取れるように手助けする政策手法**」
- 人々が選択し、意思決定する際の**環境をデザイン**し、それにより**行動をもデザイン**する
- **選択の自由**を残し、**費用対効果の高い**ことを特徴として、欧米をはじめ世界の200を超える組織が、あらゆる政策領域 (SDGs & Beyond) に行動インサイトを活用
- 我が国では2018年に初めて成長戦略や骨太方針にナッジの活用を環境省事業とともに位置付け (2019年の成長戦略、骨太方針、統合イノベ戦略、AI戦略等にも位置付け)

省エネナッジの例: 省エネレポートで 2%CO2削減
(2017~2019年度実績。50万世帯で実証)

先月のご使用量比較



2013年6月30日 - 2013年7月21日

県内の最大100世帯のよく似たご家庭のデータを参考にしています。省エネ上手なご家庭とは、電気使用量の少ない上位20%の世帯を指します。詳細は特設サイトをご覧ください。 <http://j.nudge.jp/ner>

😊 大変良い
😊 良い
😐 もう少し

38% 上がっています
(省エネ上手なご家庭との比較)

これまでのご使用量との比較



過去6カ月のお客さまのご使用量は、よく似たご家庭を上回っています。
20,000円 の出費増です

他の世帯との比較

【同調性・社会規範】

所属する集団内での他のメンバーの実態と望ましい水準の理解に役立つ

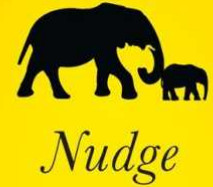
損失を強調したメッセージ

【損失回避性】

「ものを得る喜びよりも失う痛みの方が強く感じる」という行動経済学の理論を応用

徹底した実証主義により施策の効果を明らかにし、社会実装へ(EBPMの実践)

ナッジ (nudge : そっと後押しする) とは



英英辞典(ロングマン英英辞典)の定義をまとめると、

- ひじ等でそっと押して注意を引いたり前に進めたりすること
- 特定の決断や行動をするようにそっと説得・奨励すること

セイラーとサンステーン(2008)の定義では、

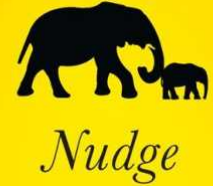
- 選択を禁じることも、経済的なインセンティブを大きく変えることもなく、人々の行動を予測可能な形で変える選択アーキテクチャーのあらゆる要素



リチャード・セイラー教授
2017年
ノーベル経済学賞

以降の出典: Richard H. Thaler & Cass R. Sunstein (2008)
Nudge: Improving Decisions About Health, Wealth and Happiness
及びその邦訳(実践行動経済学、2009)

ナッジ (nudge : そっと後押しする) とは



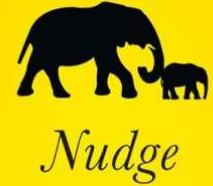
セイラーとサンステイーン(2008)の定義では、

- 選択を禁じることも、経済的なインセンティブを大きく変えることもなく、人々の行動を予測可能な形で変える選択アーキテクチャーのあらゆる要素



- 選択の自由は残す(規制・強制ではない)
→ 自由の国アメリカ等で受け入れられた理由の1つ

ナッジ (nudge : そっと後押しする) とは



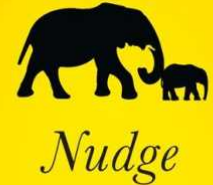
セイラーとサンステイーン(2008)の定義では、

- 選択を禁じることも、経済的なインセンティブを大きく変えることもなく、人々の行動を予測可能な形で変える選択アーキテクチャーのあらゆる要素



- 税制や補助金のように経済インセンティブを大きく変えるものではない
- 小さく経済インセンティブを変えるもの(少額の節約、ポイント等)は除外していないが、経済インセンティブの受け止め方の大小は個人差があり、一様に言えない
- 少なくとも、経済インセンティブだけで動かすのはナッジではない

ナッジ (nudge : そっと後押しする) とは



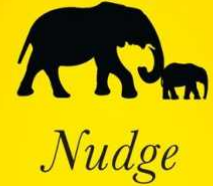
セイラーとサンステイーン(2008)の定義では、

- 選択を禁じることも、経済的なインセンティブを大きく変えることもなく、人々の行動を予測可能な形で変える選択アーキテクチャーのあらゆる要素



- 行動科学の知見や理論に基づいて、ということを端的に表したもの
- 行動科学は、行動経済学、心理学、社会学、認知科学、脳神経科学等行動に関する自然・人文・社会科学の総称 (behavioral sciences)
- 行動経済学のみではない (同調性、社会規範は経済性のみの議論ではない)

ナッジ (nudge : そっと後押しする) とは



セイラーとサンステーション(2008)の定義では、

- 選択を禁じることも、経済的なインセンティブを大きく変えることもなく、人々の行動を予測可能な形で変える選択アーキテクチャーのあらゆる要素



- 選択アーキテクチャーとは、人々が選択する際の「環境」のこと
→ 自発的な意思決定のための環境をどうデザインするか

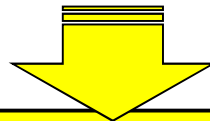
環境省が日本版ナッジ・ユニット
BESTの事務局を担っています

人が意思決定し、選択する際の「環境」をデザインし
それにより「行動」をもデザインすること

公共政策としてのナッジ（どのようにナッジをデザインすべきか）

セイラーとサンステーション(2008年)の主張からの考察

- 役に立つと思われるナッジを与える際には、選択アーキテクトの意図が働く可能性がある
- 100%の中立はあり得ないが、やめるべきだとは思わない。その代わりに、インセンティブを調整できるときには調整し、できないときには監視して**透明性**を確保
- 公的部門でも民間部門でも、**透明性**を高めることを第一の目的にしなければならない
- こうした問題にアプローチするため、われわれの指針原則の一つに立ち戻ることにする。「**透明性**」である。・・・正当性を公然と主張できないか、そうする意思のない政策を選択してはならない・・・政府は統治する人々を尊重すべきであり、正当性を公然と主張できないような政策を導入するのは、統治する人々を尊重していないということだ
- 基本的な結論として、**ナッジの評価は効果**(人々に損害を与えるか、人々を助けるか)に左右される



効果をきちんと評価し、エビデンスに基づく政策立案を実施して
透明性を高め、説明責任を果たすことが重要

公共政策としてのナッジ（どのようにナッジをデザインすべきか）

日本版ナッジ・ユニット連絡会議 有識者（阪大・大竹教授）の指摘

ナッジには、

- 特定の目的を達成したいという気持ちをもっている人の行動を促進するものと、
- そのような理想的な目的をもっていない人に理想をもたせて行動させるというものがある

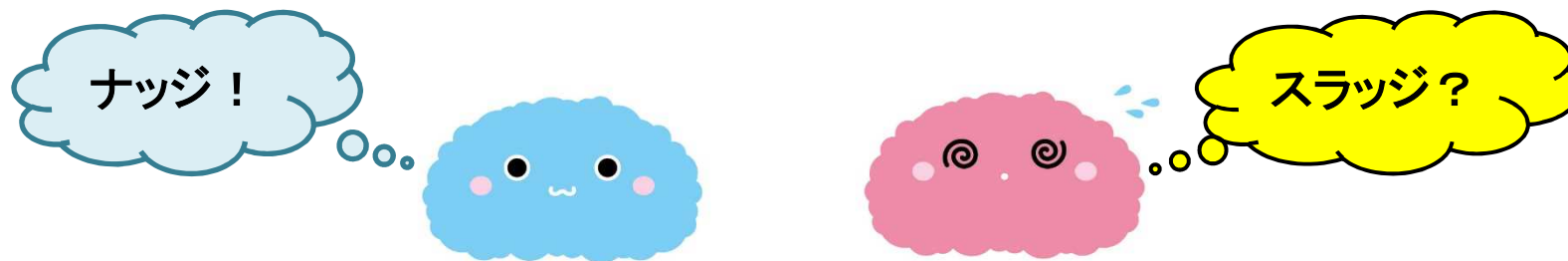
（第4回日本版ナッジ・ユニット連絡会議）

- 前者は比較的、政策的介入の妥当性の説明がしやすい
- 後者はとりわけ倫理的な配慮の検討が必要（もちろん前者も）
- 日本版ナッジ・ユニットの下にナッジ倫理委員会を発足
- ナッジ等の行動インサイトの活用に関わる倫理チェックリストを発行

再びセイラー教授：良いナッジ・悪いナッジ（スラッジ）

セイラー(2018)は、

- ナッジを通じて選択アーキテクチャーを改善することで、選択肢を制限することなしに人々が賢い選択ができるようになる
- 「自分自身にとってより良い選択ができるように人々を手助けすること」が目的（「**良いナッジ**」）
- 一方、賢い意思決定や向社会的行動を難しくするような「**悪いナッジ**」を「**スラッジ**（英語 sludge: ヘドロ）」と命名
- 公共部門・民間部門を問わずスラッジを一掃するよう働きかけ



- 私たちの身の回りには、もともとナッジ(的なもの)があふれている。
- セイラー教授が2017年にナッジ・行動経済学関連でノーベル経済学賞を受賞して以来、諸外国同様、わが国でもナッジの活用を検討する組織が増えてきている。
- その多くはまだ実証実験の段階。効果を明らかにした上で施策にまで落とし込んでいる事例はあまり多くはない。
- ナッジを行政で公共政策として活用する際には、「良い」ナッジ、かつ、「効果のある」ナッジであるべき。その際、市民にとって良いのか、社会にとって良いのか、両立できないときは何を優先すべきか？ 何をもって「良い」「悪い」とすべきか？
- ナッジはあくまでも政策オプションの1つにすぎない。ナッジかそれ以外か、の二元論ではなく、伝統的政策手法と補完し合って、施策の実効性を高めるためにナッジを活用できないか。
- ナッジの活用は他の政策アプローチと同様、人々の生活に介入し、行動様式に影響を及ぼすことがある。その活用に携わる人は、法令の定めるところに加え、高い倫理性が求められるもの。
- 「ナッジ」と言うと、目新しいものにとらえられがちだが、実は行政で日常的に行われてきた広報・普及啓発はまさにナッジ(的なもの)であり、身構える必要は無い。
- ただし、「効果のある」ナッジであるか検証されていないものも多いと思われるため、市民への説明責任の観点で、EBPMの実践と合わせて今後期待されるべきもの。